資 料 3

琵琶湖博物館第３期リニューアルの実施設計素案について

１　展示空間の再構築の概要

（１）全体スケジュール等

	第1期 リニューアル	第2期 リニューアル	第3期 リニューアル
全体事業規模 約29億円	約15．1億円	約6．4億円	約7．5億円
リニューアル 内容	・C展示室 ・水族展示室	・交流空間 （おとなのディスカバリー、ディスカバリールーム、レストラン、ショップ、樹冠トレイル、旧UNEP施設）	・A展示室 ・B展示室

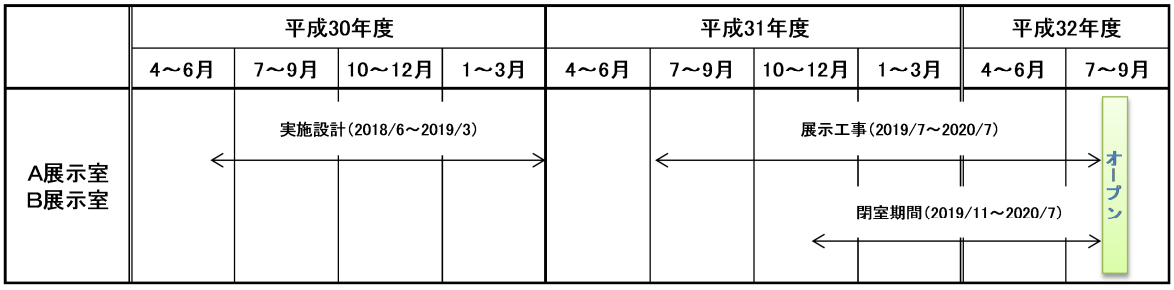
平成24年度	「新琵琶湖博物館創造ビジョン」の策定		
平成25年度	「新琵琶湖博物館創造基本計画」の策定		
平成26年度	設　計		
平成27年度	施　工		
平成28年度	施工・オープン	設　計	
平成29年度		施　工	
平成30年度		施工・オープン	設　計
平成31年度			施　工
平成32年度			施工・オープン

（２）来館者数の目標

平成 32 年度…　59 万人

（３）第３期スケジュール

第３期リニューアルは、平成 32 年７月のオープンを目指し、工事に伴うＡ展示室とＢ展示室の閉室期間は、平成 31 年 11 月から平成 32 年７月までとする。



（４）第３期事業費内訳

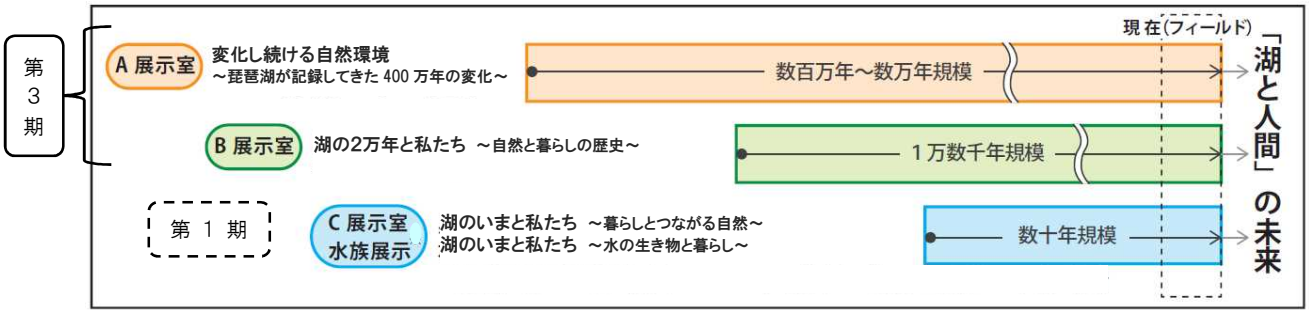
約 7.5 億円（実施設計…0.3 億円、展示工事等…7.2 億円）

２　第３期リニューアルの概要

琵琶湖の 400 万年にわたる生い立ちを紹介する「Ａ展示室」、人が琵琶湖の集水域に暮らすようになった縄文時代から近世までを紹介する「Ｂ展示室」を再構築する。

（１）新展示の考え方

自然や人びとの暮らしの変化、そのつながりを伝え、琵琶湖の過去からいま、そして未来を考える多様な視点を提示する。



（２）新展示の特徴

体験型・参加型展示や実物資料、交流の場の増加などにより、子どもから大人までが楽しめる、驚きと感動、学びと発見の機会に満ちた発信力の高い展示とする。

①タイムリーでわかりやすい展示

可変性のある展示空間で、新たな知見、新たな環境問題等についてわかりやすく情報を提示し、来るたびに新たな発見や学びがある展示とする。

②「つながり」を伝え、自分とのかかわりに気づく展示

山、川、田んぼ、湖、そこにすむ生き物たち、そしてわたしたちの暮らしとの間にある「つながり」をわかりやすく展示する。

③「いま」の展示でフィールドへ誘い、「湖と人間」の未来を考える展示

歴史を「いま」と未来を考える手がかりと位置づけ、「いま」の視点を持ちながら、「湖と人間」の未来を考える展示とする。

④交流や対話がうまれるにぎわいのある展示室

展示室に来館者が地域の人びとや博物館員と語り合うことのできる交流スポットを設け、多様な人びとが集う、にぎわいのある展示室とする。

別添の図面　P1参照

３　Ａ展示室

変化し続ける自然環境　～琵琶湖が記録してきた 400 万年の変化～

（１）新展示のねらいと全体構成

これまでの「過去の琵琶湖とその集水域の環境」を中心とした展示から、「現在の環境が過去からの一連の変化によって成り立っている」との視点で紹介する展示に再構築する。

現在の琵琶湖をイメージできる導入から、過去をたどるように展示室中央に導き「大地の変化」「生き物の変化」「気候と森の変化」の３つのコーナーでは、現在の琵琶湖から過去へ遡るように環境の変化を詳しく紹介する。

過去の様々な環境変化の結果としての現在と、現在が未来への途中にあることを認識することにより、地域の環境を考えるきっかけとなることを目指す。

（２）各コーナーの展示概要

①導入

琵琶湖の風景画像と昔の湖の場所を示した床面の地図で、現在と過去の湖をつなぐイメージで展示室中央へと導く。

【主な展示】400 万年前の環境イメージ図

②琵琶湖と生き物のものがたり

化石や地層の調査法の体験的な展示とともに、地域の中にある過去を紹介する。また、地域の人々が収集した化石などのコレクションを自ら展示して来館者と交流するコーナーを設置する。

【主な展示】体験型展示「床に埋めたゾウの足跡化石と自分の足の大きさ比較」

③変わる大地と湖

現在の琵琶湖の地下に残された過去の山の地形模型や断層標本によって、琵琶湖の長寿命の秘密を紹介し、過去の琵琶湖（古琵琶湖）が作った地層の芸術的な標本によって、琵琶湖の生い立ちを大地の変化という側面から紹介する。

【主な展示】日本で唯一の古琵琶湖地層コレクション

④変わる生き物

ワニやゾウなどの動物化石の標本で、過去に琵琶湖とその集水域にいた生き物や、動物の移り変わりを紹介し、ＤＮＡ研究からわかった琵琶湖の魚の進化を紹介する。

【主な展示】マチカネワニの実物大の生体復元模型
アケボノゾウの実物大の骨格標本

⑤変わる気候と森

琵琶湖に残る花粉化石からわかった数万年前の気候を体感しながら、これまでに気候が何度も入れ替わっていることを紹介する。また、植物化石コレクションで、長い時間では気候が大きく変わり、それにともなって森が変化してきたことを紹介する。

【主な展示】氷期の夏の気候体感コーナー

⑥むすび

琵琶湖が記録してきた 400 万年の自然環境の変化を紹介する。また、その自然環境の変化の中にいたヒトが作った環境やものを紹介することで、次のＢ展示室に引き継ぐ。

別添の図面　P3参照

４　Ｂ展示室

湖の２万年と私たち　～自然と暮らしの歴史～

（１）新展示のねらいと全体構成

これまでの「人間活動」を中心とした展示から、「人と自然環境とがどのように関わってきたのか」、その歴史を学ぶことができる展示に再構築する。

自然に働きかける主体としての「惣村」（コミュニティ）に注目し、その歴史と文化を紹介する。「里ゾーン」を中心に「森ゾーン」「水辺ゾーン」「湖ゾーン」を配置し、人が自然を最大限利用してきたことを紹介する。

自然環境と私たちの暮らしの歴史を振り返ることにより、地域の環境と自治を考えるきっかけとなることを目指す。

（２）各コーナーの展示概要

①導入

人が感じた自然への恐れを示す「龍」の巨大なオブジェを展示し、滋賀県に伝わる龍の伝説や民話を通じて、人と自然の関係を紹介する。

②森ゾーン

土器や石器などの考古資料から森の暮らし、中世・近世の山での人間活動のジオラマから森が開かれていく様子、近代の植林作業風景の模型から森を作っていく状況を展示し、人は森をどのように利用してきたかを紹介する。

【主な展示】滋賀県が誇る弥生時代の農耕具などの木器コレクション
縄文の森の原寸大ジオラマ
体験型展示「石斧を握る」「マツタケのにおい」

③水辺ゾーン

弥生時代の玉作りの再現から水辺を使う様子、中世・近世の自然災害と向き合いながら水辺に住む生活、近代の民俗資料から水辺を稼ぎの場とした状況を展示し、人は水辺をどのように利用してきたかを紹介する。

【主な展示】国内最大級の内水面漁撈用具コレクション
（国登録有形民俗文化財）
大量の漁具を使いこなす漁師の原寸大ジオラマ
体験型展示「地曳網のロクロを回す」「シジミ汁のにおい」

④湖ゾーン

丸子船が運んだ物資の展示から湖を通った近世の交通、揚水用具などの民俗資料から湖の水をくみ上げて使った仕組み、汽船の絵図や切符類から湖が観光の対象となっていく状況を展示し、人は湖をどのように利用してきたかを紹介する。

【主な展示】船大工道具コレクション（国登録有形民俗文化財）
体感型展示「さわれる丸子船の模型」

⑤里ゾーン

中世の惣村のシンボルであった「お堂」のジオラマや宮座祭祀の映像、ウシやフナ、イネやタケといった動植物に関わる道具などから、里を通じて人と人、人と自然とがどのようにつながってきたかを紹介する。また、フロアートークも可能な交流スポットも設置する。

【主な展示】惣村の「お堂」のジオラマ
勧請縄などの実物大レプリカ
村の掟書のレプリカ

⑥むすび

各コーナーで紹介した、それぞれの自然を人が最大限利用してきたことについて、その関係性の「歴史と今後」をパネルで紹介し、次のＣ展示室に引き継ぐ。